

情報モラル教育 白河市立表郷中学校

キーワード：アンケート調査、実態把握、家庭との連携、地域との連携、長時間利用、使いすぎ、タイムマネジメント、リスク教育、自分事

I 研究について

1 情報モラル教育に関する学校の課題

第7次福島県総合教育計画において、個別最適化された学び、協働的な学び、探究的な学びへと変革し、子どもたちに必要な資質・能力を確実に育成することがうたわれている。

1人1台端末が整備され、ICTの利活用が学習や生活を豊かにする反面、子どもたちの情報活用能力（情報モラル）の育成が急務である。

昨年度本事業における研究の中で、本校ではアンケートを実施し、生徒、保護者、家庭の実態を把握した上で、教員の情報モラルに関する専門性を高めることができた。今年度は、改めてアンケートを実施し、昨年度からの変容を確実に捉え、家庭と連携した取組を実践していきたい。また、日常生活指導や教科の中での情報モラルに関する指導をどのように行っていくかについて、研修を深めていきたい。日々変化している情報化社会に対応するためにも、教員自身のICTに関する知識・技能の向上を図ることも本事業の研究と併せて推進していきたい。

2 令和4年度の重点事項と計画

今年度は、家庭・地域との連携の強化と各教科での教材開発を目指し、以下を重点事項として年間の計画を立てた。

(1) 重点事項

- ① 1人1台タブレット配備後の実態の確実な把握
- ② 家庭や地域との連携した取組の実践
- ③ 日常生活指導や各教科における情報モラル教育の実践

(2) 今年度の計画

時期	実施内容
6月23日	研究推進委員会 「今年度の取組とアンケート調査について」
7月1日	アンケート実施（対象：生徒・保護者・教員）
7月20日	第1回校内研修会 「実態と今年度の取組について」
8月22日	第2回校内研修会 「情報モラル教育の教材開発について」
9月15日	研究推進委員会 「第1回校内授業研究会に向けて」
10月2日	県PTA白河大会での講演 塩田真吾 様
10月28日	第1回校内授業研究会 第3学年学級活動【指導助言者 塩田真吾 様】
11月24日	研究推進委員会 「第2回校内授業研究会に向けて」
12月6日	第2回校内授業研究会 第1学年学級活動【指導助言者 塩田真吾 様】
1月26日	研究推進委員会 「今年度の実践のまとめに向けて」
2月13日	第3回校内研修会 「今年度の実践のまとめ」 ※表郷小学校と県南教育事務所（岡村武指導主事）との打合せを 随時設ける。

(3) 研究の概要

① 一歩踏み込んだ実態把握

本校では年1回のスマートフォンの使用に関するアンケートを行い、生徒のスマートフォンの使用状況やSNSの利用状況を確認してきた。また、年4回の生徒へのいじめに関するアンケートを行うことで、ネットトラブルやSNSに関するトラブルを把握し、随時対処してきた。昨年度より、デジタルアーツで行っているアンケートをもとに、生徒・保護者・教員に対してアンケートを行い、それにより、スマートフォンやSNSの使用状況などの一歩踏み込んだ内容を把握し、それらを比較・分析を行うことで情報モラル教育の実践に生かすこととした。

② 家庭や地域と連携した取組の実践

昨年度のアンケートの結果より、スマホやゲームの利用時間について困り感を強くもっていることが分かっている。そのため、今年度もアンケートを行い、学校としての傾向をしっかりと把握し、また、その結果をもとに、保護者の話を聞く機会を設定し、その困り感を具体的に共有することで、その困り感に基づいた実践を行うこととした。そして、学校での情報モラル指導の実践を保護者へ発信することで、保護者を巻き込んだ情報モラルの育成を目指した。

II 研究の実際について

1 アンケートから

(1) アンケートの概要

生徒と保護者に対するアンケートは、昨年度に実施したデジタルアーツで行なっているアンケート内容に準拠した内容を実施した。それにより、昨年度の結果と比較することができ、本校の実態や特徴をとらえやすくなると考えた。

(2) 生徒アンケートから

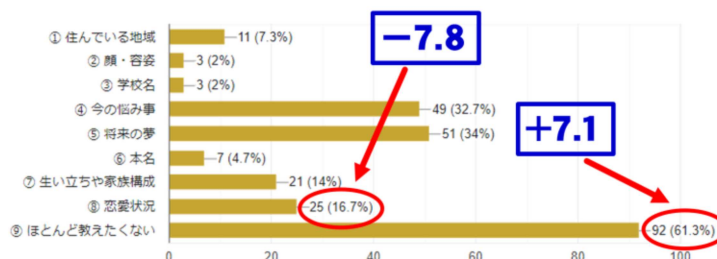
・自分専用のスマートフォンの所持率	86.0% (+4.2)
・インスタグラムの使用	40.7% (+12.0)
・午後10時～午前0時のスマートフォンの使用	44.0% (+7.1)
・裏アカウントを持っている	32.7% (+7.5)
・ネット上だけの友達がいる	20.7% (-5.2)

※ () は昨年度のアンケート結果との比較

◇ネット友達にどこまでの情報を教えられるか？

11 インターネット上でコミュニケーションをとる友達にどこまで情報を教えられますか。あてはまるものすべてを選んでください。この質問には全員答えてください。

150件の回答

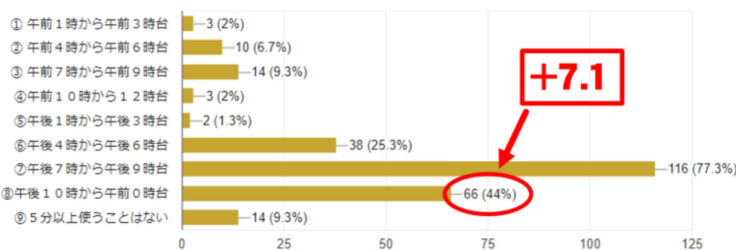


ほとんど教えたくないが61.3%であり、昨年度から+7.1ポイントとなっている。また、恋愛状況なら教えられる生徒は16.7%で昨年度から-7.8ポイントとなっている。これらは昨年度からの指導の成果と考えられる。

◇平日、休日はどの時間帯にスマートフォンを使用しているか？

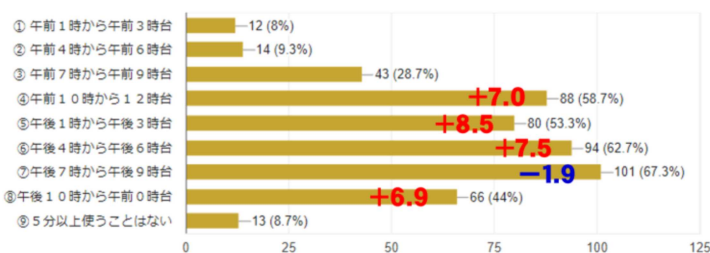
3 あなたはスマートフォン（タブレット／携帯電話）を平日（月曜日から金曜日）どの時間帯につかっていますか。あてはまるものすべてを選んでください。※合計して5分以上使っている時間帯をすべて選んでください。

150件の回答



4 あなたはスマートフォン（タブレット／携帯電話）を休日（土・日曜日、祝日等）どの時間帯につかっていますか。あてはまるものすべてを選んでください。※合計して5分以上使っている時間帯をすべて選んでください。

150件の回答



平日では、午後10時から午前0時台の使用が44%で昨年度より+7.1ポイントとなっており、休日では、午前10時以降のほとんどの時間帯で増加傾向が見られる。これらの結果より、スマートフォン等の長時間使用の傾向が分かり、生徒の日常に欠かせないものとなっていることがわかる。

(3) 保護者アンケートから

・スマホやゲームの使用時間を法律で規制すべき	12.5% (+6.1)
・SNS等の利用について子どもと週1回以上話す	21.1% (-9.1)

◇スマホやゲームの利用時間の制限について

- ① 法律で罰則を設けて規制すべき → 12.5% (+6.1)
- ② 法律で規制すべき（罰則なし） → 11.7% (+1.0)
- ③ 法律でなく各家庭で決めるべき → 46.9% (+1.9)
- ④ 法律でなく端末で制限をかけるべき → 27.3% (-9.8)
- ⑤ 制限する必要はなく好きだけ使えばよい → 1.6% (+0.9)

◇SNSや写真・動画アプリの利用について我が子と話す頻度

- ① 週1回以上話している → 21.1% (-9.1)
- ② 月1回程度話している → 40.6% (+3.3)
- ③ 年1回程度話している → 14.1% (+5.4)
- ④ 年1回未満話すことがある → 7.0% (+3.0)
- ⑤ ほとんど話すことはない → 17.2% (-2.6)

利用時間について、法律で規制すべきと考える保護者が増加しており、また、SNSや各種アプリの利用について我が子と頻りに話している保護者の割合も減ってきている。これらの結果から、家庭での指導に困り感を感じている保護者が増えているのではないかと考えられる。そのため、保護者と連携した取り組みが急務であると考えられる。

2 校内授業研究会から

(1) 第1回校内授業研究会(学級活動(2) 10月25日)

第3学年 学級活動(2)「情報機器の長時間利用について」Ⅰ 心身ともに健康で安全な生活態度や習慣の形成

① 生徒の実態から

80%以上が自由に使えるスマートフォンやタブレットを持っており、ほぼ全ての生徒がSNSを使用している。平日や休日の利用時間が昨年比で増えており、スマートフォンが生徒にとって日常に欠かせないものとなっている。その一方で、深夜にスマートフォンを使用する生徒も増えており、長時間利用による問題も懸念される。

② 授業構想

自分の24時間の生活を振り返る活動を通じて、スマートフォンを長時間使用してしまう自分の弱い気持ちを自覚させ、スマートフォンの長時間利用を防ぐのにどのような方法があるかについて話し合い、考えを深めさせる。

③ 授業の実際

〈本時のねらい〉

自分自身の生活を振り返り、スマートフォンを長時間利用してしまう理由と、それを防ぐ方法について考え実践しようとする事ができる。

学習活動・内容

1 24時間の振り返りシートを確認する。

2 課題把握

スマホの長時間利用を防ぐ方法は？

3 スマホを長時間使用してしまうときはどんなときかについて考える。

4 長時間利用を防ぐ「具体策」について考える。

5 「メディアとうまく付き合おう宣言」として、1日のスケジュールの改善案を作成する。



④ 事後研究協議会から

○アンケートをとったことで、保護者-生徒間の認識のずれや生徒間での認識のずれに気づき、自分事として捉えられていた。

●長時間はどうしてだめなのか。悪い面を考えつつ、どうしたらいいのか、うまく付き合うという宣言につなげられるとよい。良い部分に視点を向けることも、今後必要ではないか。

⑤ 指導助言

【情報モラル教育の視点から】静岡大学教育学部学校教育講座准教授 塩田真吾 先生

○子どもたちに自分で自律的に時間を管理する力をどのように身に付けさせるか。

i 「工夫」はどうすれば思い付くのか。

ルールを破りそうになるときはどんなときか、長時間利用をしてしまうときはどんなときかを考え、そこから「工夫」を考えることが必要。

ii 「やるべきこと」をスムーズに終わらせるのは何のためか。

「空いた時間」で何をするのか。やりたいことを広げてあげることが必要。

⑥ 「情報モラルだより」の発行

アンケートの結果と授業実践の様子を「情報モラルだより」としてまとめ、学年保護者会の要項に入れて、全学年全学級の家庭に説明・配付した。保護者－生徒間の認識の違いがあることや長時間利用を防ぐためにどのようなことに気を付ければよいのかを保護者に伝え、情報モラルやSNSの使い方などを親子で見直すきっかけとした。

(2) 第2回校内授業研究会(学級活動(2) 12月6日)

第1学年 学級活動(2)『使いすぎ』によるトラブルを防ぐには」エ 心身ともに健康で安全な生活態度や習慣の形成

① 生徒の実態から

80%以上の生徒が自分専用のスマートフォンなどの端末を所持し、ほとんどの生徒がLINEなどのSNSを使用し、友人と連絡を取っている。SNS上で書き込みや画像投稿等が原因のトラブルが年に数件発生し、その多くが自己中心的な考えからくる発言や行動が原因であり、ソーシャルスキルの育成やモラル教育が喫緊の課題である。

② 授業構想

カード教材を活用し、自分と相手との考え方や感じ方に違いがあることに気付かせながら、「何が『使いすぎ』なのか」を考えさせ、自分が使いすぎていることで、相手に迷惑をかける可能性があることに気付き、生徒が「自分事」として問題に向き合い、考えることで、「当事者としての自覚」を促したい。

③ 授業の実際

〈本時のねらい〉

使いすぎの問題点を理解し、自身の課題を見つけて、これからの行動目標を具体的に考えることができる。

学習活動・内容
1 今までの情報モラル授業を振り返る。
2 課題把握 ネットやゲームの「使いすぎ」って何だろうか。
3 「ネットの使いすぎ」について、カードを並び替えて考える。
4 「使いすぎ」の意識の違いがどのようなトラブルを起こす危険性があるか考える。
5 「使いすぎ」の定義について考える。
6 トラブルを防ぐ方法について考える。
7 保護者とともに「使いすぎ」によるトラブルを考える。



④ 事後研究協議会から

- ロイロノートを活用し、他者との意見共有ができていた。また、カード教材を使用することで取り組みやすく、思考を整理しやすかった。
- 「使いすぎ」というキーワードを別な言葉に置き換えたほうが考えやすかったのではないか。また、思考の整理を行い、深めていくために板書の工夫が必要である。

⑤ 指導助言

【情報モラル教育の視点から】静岡大学教育学部学校教育講座准教授 塩田真吾 先生

i 情報活用能力は「活用+リスク対応」である。

ii 3年間を見通して「使いすぎのリスク」に対応できる力をどのように育成していくか考えていく必要がある。

Ⅲ 成果と課題について

1 成果と課題

- 「使いすぎ」の定義は難しく、時間だけでは決められない。体に悪影響が出ている状態や本当にやるべきことがやれなかった時、自分の意志でやめられない場合など、これまでになかった視点で考え直すことで、情報モラル教育を教員全員で捉え直すことができた。
- 「生徒が思う使いすぎ」と「保護者が思う使いすぎ」に大きなずれがあり、そのデータをうまく活用することで、自分事として問題を捉えることができた。また、保護者にその情報をフィードバックすることで、親子で問題に取り組むきっかけとすることができた。
- 工夫や改善策をただ考えさせるだけでは、「良い工夫」は思いつかない。ルールを破りそうになるときはどんなときか、長時間利用をしてしまうときはどんなときか等を考えることで、工夫すべき点が見えてくる。新たな視点で我々の指導の在り方を見直す機会となった。
- リスク教育は情報モラル教育だけに限らない。学校教育全体で取り組むべき課題である。日常的な指導や教科での指導に広げていく必要がある。
- 日々変化している情報化社会に対応するためには、ICTに関する教員の知識・技能を高める必要がある。情報モラル教育とあわせて、教員一人一人の研修意欲をさらに高めていかなければならない。
- 「リスク」に対応できる力を育成していくためには、3年間の見通しをもって、計画的かつ継続的に指導を行なっていく必要がある。また、日常的な指導や教科の中での指導をどのように行なっていくか情報モラルを取り上げる場面を模索する必要がある。
- 各教科等での情報モラルの指導をどのように行っていくのか探ってきたが、深まりのある取り組み等が難しいと感じている。

2 次年度以降の取組について

- ・ 生徒や保護者の実態を把握し、今年度との比較をすることで、変容を確実に捉え指導に活かしていく。
- ・ リスク教育を情報モラル教育だけにとどまらず、日常的な指導や各教科等での指導に広げていく。
- ・ 情報モラル教育を各教科での活動場面での指導に広げて取り組んでいくために、どのような学習活動の中で組み込んでいけるのか検討していく。

○ 参考資料

【第2回校内授業研究会】

一般財団法人LINEみらい財団・静岡大学、「『楽しいコミュニケーション』を考えよう！『使いすぎ編』」。

※本授業で使用したカード教材の著作権等の知的財産権はLINE株式会社に帰属します。

授業で使用するため、教材申込を行い、LINEのHPから無料でダウンロードしました。